

研修Ⅰ A 丸亀 生きてはたらく力を育てる言語活動の工夫

「聞き手を意識しながら話そう 一わたしの『とっておきの1枚』一」（東京書籍5年）

1 提案の概要

（1）主張点

① 自分の思いを伝えたいという児童の願いを大切にした単元構成の視点から

ア 本単元で重点的に身に付けさせたい力

身に付けさせたい力を明確にし、友だちに伝えたい、友だちの思いを受け止めたい
という気持ちが単元を通して持続するように心がけた。

イ ねらいを焦点化した単元構成

設定した話す力・聞く力を焦点化しながら指導できるように単元を構成した。

② 本時の授業づくりの視点から

ア 「学習の見通しをもち、意欲を高める」ための教師のスピーチ

スピーチの内容面への工夫に対して意欲化を図るために、話し方はよいが内容が不
十分な教師のスピーチを聞かせた。

イ 「伝えたいことを明確にし、事柄を選択する」ための鉛筆対談

言葉でのやりとりでは考えをまとめにくい児童への有効な支援になった。スピーチ
メモを書く際にもう一度見直す等、活用することができた。

ウ 「思いが伝わる事柄・構成に目を向けさせる」ための代表者のスピーチメモ
代表者のスピーチメモを参考に自分のスピーチメモを見直すことができた。

エ 「聞き手を意識しながら話す技を学ぶ」ためのモデルスピーチ

スピーチメモの学習で取り上げた代表者のスピーチをモデルスピーチとして聞い
たので、児童は、話し方の工夫をたくさん見つけることができた。

オ 「話し手と聞き手の交流を図る」ための聞き方シートの活用

聞き方のポイントを2つに絞った。その結果、聞き手は感想を発表しやすくなり、
話し手と聞き手の双方向の気持ちの交流が図れた。

③ 話し合いを大切にした学級の風土づくり

ア 「わかりやすく話す」ことを意識付けるための国語科の系統

イ 「話し合う必要性」「話し合う喜び」「聞く必然性」を育てる学級会活動

ウ 「話す・聞く」を意識づける常時指導

2 成果

○ 単元構成を工夫したことで、児童が見通しをもって主体的に学習することができ
た。児童の活動を「内容」と「話し方」に分け、ステップを踏んで指導したので、児
童の思考のエネルギーが焦点化され、児童は学習に取り組みやすかった。

○ 国語科での学習が、総合的な学習の時間や日常生活の中で生かすことができた。

○ 聞き手の反応に合わせて詳しく伝えようという意識が高まり、友だちの話を最後ま
で聞いて積極的に発言できるようになった児童の割合が増えた。

3 課題

○ スピーチメモの校正に時間をかけ過ぎたために、スピーチメモがスピーチ原稿にな
ってしまった、スピーチに対する意欲が減退したりした児童が見られた。メモ書き
の指導を継続する必要がある。

○ 当該学年で身に付けさせたい技を意識的に取り入れるよう呼びかけるなど、当該学
年で身に付けさせたい技と既習の技を区別しておく必要がある。

生きてはたらく力を育てる言語活動の工夫

「聞き手を意識しながら話そう 一わたしの『とつておきの一枚』一」(東京書籍5年下)

1 はじめに（児童の実態）

(1) 5年生4月当初

朝の会でスピーチタイムを設けている学級は多いだろう。

児童の日常生活を把握するためとか、ニュースに関心をもたせるためとかその目的は様々だろう。しかし、一番の目的は、おそらく「話す力」を育てるということではないだろうか。

それは、授業中の発表や、「話す」ことを目標にした単元だけでは積み重ねた指導ができないからだろう。

しかし、日々のスピーチタイムは本当に個々の「話す力」の成長を実感できる場になっているだろうか。

本学級では、5年生になった4月当初、クラス替えをしたばかりでどの子にも照れが見られた。話す声は小さく、内容はパターン化し、フロアの反応は偏りがち。そのためますます話し手は話しにくくなる、といった悪循環がおきていた。

学び合うためには、「聞き手」と「話し手」がお互いを支え、高め合えるような学級集団をつくらなければいけない。そこで、まず、4月に児童30人に「スピーチ」に対する意識調査を行った。



* どんな人がスピーチ名人だと思いますか。 (記述式・複数回答)

声が大きい 30人 話すスピードがちょうどいい 27人 視線が合う 14人

はきはきしている 22人 具体的な話がある 9人

* 話をしていてうれしいことはどんなことですか。 (記述式)

聞いている人（先生も）が反応してくれる。（うなずき・質問・感想で手が挙がる） 30人

* スピーチを聞いた後、挙手しないのはなぜですか。 (記述式)

話していることがよく分からぬから 13人

質問は相手に悪いと思うから 7人

どんなことを言えばいいのか分からぬから 8人

4月当初、児童の意識は、「内容」よりも「話し方」に向いていたようだ。

そして、「聞き手」も「話し手」も互いに意識はしているものの、自分の思いを相手に伝える方法が見つかっていなかつたことが分かる。

(2) 本单元に至るまで

まず、年間を通しての「話す・聞く」の言語活動として、毎年学年末に行われる「総合学習発表会」を設定した。そこでは、総合学習で学んだことをおうちの人人に分かりやすく伝えるための「内容」「話し方」の工夫が必要になるからである。

そして、国語科の「話す・聞く」活動と「読む・書く」活動を系統立てて指導し、児童には常に「分かりやすく話す」ことを意識させた。

メモ書きして話す
ことができたよ。
聞き手の印象に残
るような強調言葉を
使ったよ。

一文が短いと、聞き
やすいな。接続語や文
末に気を付けると、意
見なのか理由なのか聞
き取りやすい。

パネラーの意見を比
べながら聞くと、それ
ぞれの考え方のよさが
見えてきた。
理由は、接続語に気
を付けると、いくつあ
るのか聞きやすいよ。

意見を述べるとき
は、立場をはっきりと
させて、理由と具体例
を述べると分かっても
らいやすいな。

総合学習発表会に向けて

話す・聞く活動	読む・書く活動
	4月 メモを使って題材をさがそう
5月 ゲストティーチャーをいせんしよう	5月 文章の構成に気を付けながら要旨を読み取ろう 「動物の体と気候」
6月 意見とその理由を聞き取ろう	6月 新聞記事を読み比べよう
9月 パネル討論をしよう	6月 立場を明確にして書こう 9月 資料を読んで考えたことを書こう
	11月 題名の工夫や述べ方に注意して読み、要旨を読み取ろう 「森林のおくりもの」
1月 (本单元) 聞き手を意識しながら話そう わたしの「とっておきの1枚」	12月 ふさわしい方法を選んで発表しよう

連想メモで話す題材を見つけ、スピーチ原稿を書いて話したよ。

会話文を入れるとその時の様子が伝わりやすいな。

比較しながら述べることで、特徴がはっきりするな。要旨につながる事実をいくつも挙げてつなげているな。

「読み手に伝えたいこと」に合わせて写真を選んだらしいんだな。

身近なものから具体例を述べると読みやすいな。いくつもの話をする時は、問い合わせを所々に入れると、話が変わったと分かるな。

前に述べていることを受けて言うときの言葉が分かった。スピーチにも使えるといいな。

総合学習発表会

国語科学習で学んだことを使って、アジアの文化をお家の人に分かりやすく伝えよう。

「内容の技」

- 9月のパネルディスカッションで、自主的に「なか」を工夫しようという態度が初めて見られた。それは、自分の意見を明確にし、主張する必要性がある場だったからだ。それまでに学んできた「内容の技」を用いて、その効果を再確認することもできた。また、意見を発表した時、フロアが反応してくれたのがうれしかったようだ。結果的に、8割以上の児童が「もっとしたい」と答えていた。
- 自分の思いを伝える場である朝の会のスピーチでも、「なか」を具体的にすることができ始めていた。しかし、「聞き手に合わせて」というよりは、「技」にこだわり、形式的なもので終わっている様子だった。

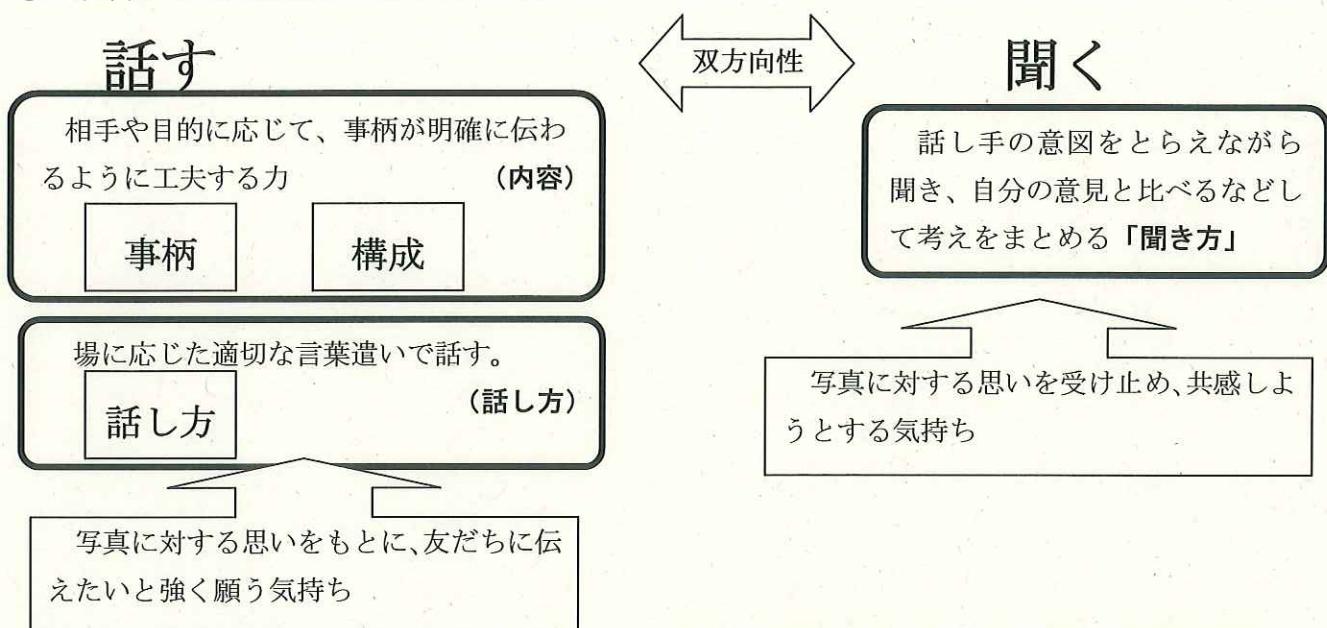
「話し方の技」

- 「聞こえる声」「聞きやすい速さ」は、気を付ける児童が増えてきた。聞き手と「視線をつないで」もできてきたが、相手の反応を見ている様子ではなく、形式的であった。そのため、「はじめ」に呼びかけを入れても、聞き手の反応に合わせて、間を取ったり、説明を加えたりする様子は見られなかった。

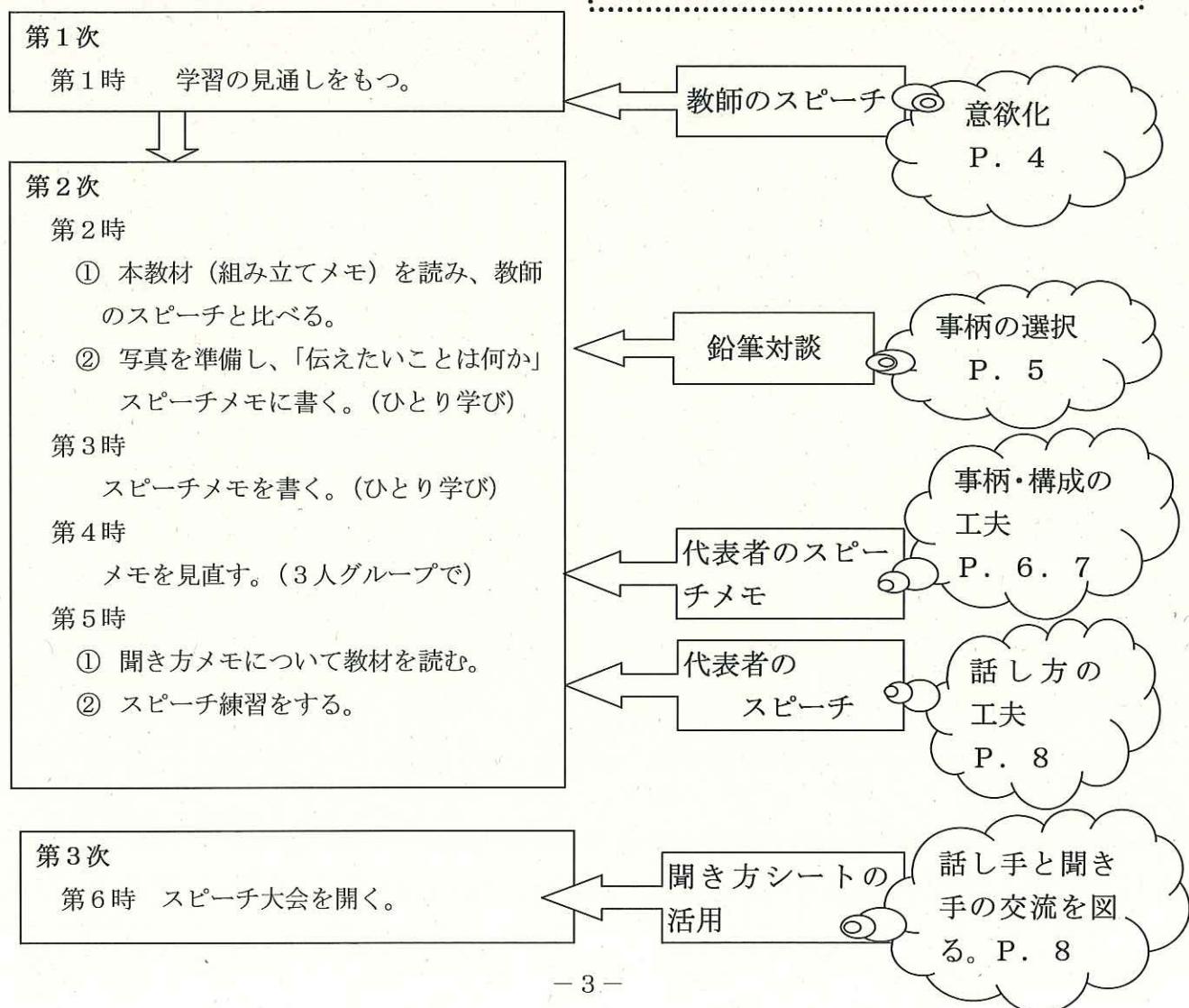
2 主張点

(1) 自分の思いを伝えたいという児童の願いを大切にした単元構成の視点から

- ① 本単元で重点的に身につけさせたい力



- ② ねらいを焦点化した単元構成 (全6時間)



(2) 本時の授業づくりの視点から

「学習の見通しをもち、意欲を高める」ための教師のスピーチ

第1次

第1時

「うれしかった」気持ちから「他にもいろいろ挑戦したい」という気持ちになります。

この写真は、タイムがとつても上がって喜んでいる写真で、今でもうれしかった、他にもいろいろがんばろう、という気持ちになります。

「すごく」とか「とても」をくり返されても、実際にどのくらい速くなつたのか分からぬよ。

入部してすぐの時は、坂道を自転車で登るのが大変で、とても時間がかかり、つらかったのですが、毎日毎日練習して、がんばつたので、速くなりました。

「タイムトライアル」とか「五色台」とかよく分からぬ言葉があつたのに、そのままずつと話すから、何の話か分からなかつた。

わたしは、大学時代、サイクリング部に所属していて、五色台タイムトライアルに挑戦したことあります。

共感できない……

なるほど。自分が分かっていっても話さなければ、聞き手には伝わらないことがあるなあ。

先生は、スポーツが苦手で、嫌いだったんだよ。でも、練習で毎日200mの山を2回登る練習をしたら、歴代2位の成績まで速くなつたんだ。だから「やつたらできる」「他にも挑戦しよう」と勇気づけられたんだよ。

「内容の技」として確認したのは以下の通り。

「一文は短く・接続語でつなぐ」

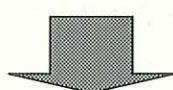
「数字の技」「比較の技」

である。あとでスピーチメモを作る際、振り返ることができるよう短冊カードに書いて掲示していった。

伝えたいことを明確にするために、単に詳しく例を挙げるだけでなく、「必要な文言を加える」と、聞き手が共感しやすいことにも気付いた。「必要な文言を加える事柄の工夫」

意欲化

教師のスピーチを聞かせる前に、4月のアンケート結果を見せた。「話し方」は児童の考えていたスピーチ名人だが、内容面で不十分なスピーチを聞かせたことで、児童は、「もっと分かってもらえるスピーチをしたい」という意欲をもてたようだ。



「伝えたいことを明確にし、事柄を選択する」ための鉛筆対談

① 教師のスピーチと比較することにより、児童は、教材のよさにすぐ気付くことができた。

② 写真を準備し、「伝えたいことは何か」スピーチメモに書く。(ひとり学び)

写真にインパクトがなく、伝えたいことが曖昧な児童への個別指導 (K児の場合)

(教師)

(K児)

ハワイの旅行のことを分かってもらいたいです。

これで「ハワイ」のイメージが分かるのかな? 海の写真とかフラダンスとかないのかな?

ハワイのバスの中は、木でできていて、お兄ちゃん「面白いねえ、日本と違うね。」と話しました。

この写真は、バスの中だね。ハワイのバスの中でみんな(聞き手)がびっくりするようなことがあったのかな。

お兄ちゃんは、今は高校生になってなかなか話もできない。けど、この時はバスの中でゆっくり話ができてうれしかったから、この写真を選びました。

今はあまり話せないお兄ちゃんとハワイのバスの中で話せて嬉しかったんだね。

事柄の選択

スピーチメモを書く際に使えるね。

写真の思い出を書かせたり、個別に鉛筆対談したりして「伝えたいこと」を明確にしていった。すると、写真を一見しただけでは分からぬ事柄が見えてくることが多かった。

鉛筆対談を用いた理由は3つある。

一つ目は、スピーチ教材なので、できるだけ「聞き手」に内容を事前に知らせたくないということ。

二つ目は、言葉のやりとりでは、児童がじっくりと考えにくいという点である。さらに、筆談した内容は、この後のスピーチメモを書く際に読み返し、その中から伝えたいことを選択することができたので効果的だった。

隠れた事柄を話し手が明確にし、選択して話すことが、聞き手に共感してもらえるスピーチにつながることに気付くことができた。

第3時・・・スピーチメモを書く。(ひとり学び)

「思いが伝わる事柄・構成に目を向けさせる」ための代表者のスピーチメモ

第4時・・・メモを見直す。(3人グループで)

① 代表者のスピーチメモから学ぶ

④	②	③	①
まとめ ちがうクラス 思い出 今のクラスの友達 まとめていきたい 思い出	写真にまつわるエピソード 田舎 おきしの家 団地んなことをするか わくわく 団地中おかしの家 われをうも助け合 最後テレビにてきをつ	大切にしている理由 楽しい思い出 思い出せる 友達と初おめしづくり とも思い出に残っている ① ②	構成の工夫 順番 読みかけ 写真の内容 思い出の写真 勇気 写真の説明 田神男さんの家 ? ↑写真 まづに笑顔で やさぐり 問い合わせ 順番 例え 明るく

「内容の技」
 「テレビに出てきそうな…」という例えで立派なケーキができたんだなと分かったよ。

「例えの技」
 楽しそうな会話で様子を想像しやすい。「会話文の技」

話す順序を考える技

話す順番を変えたあとがあつたので、理由を本人に質問した。すると、二つある「大切にしている理由」のうち、まとめとつながる部分を一番目に話した方が話がつながって、聞きやすいと判断したからだと答えてくれた。「話す順序を考える技」

分かりやすいスピーチメモには、今までに見つけて掲示してきた技が実際に使われていることを再確認することができた。

まとめの前の部分には、つながる事柄を話すと聞きやすいことを学び、自分たちのスピーチメモを見直すきっかけになった。

② メモを見直す。

○ 書くことにも話すことにも苦手意識をもち、本論の部分にあまり書けていない児童の例

4	3	4	3
まとめ これからもがんばりたい。	頬が丸くならない。 必ずかがうだ。 写真にまつわるエピソード	フラワー アレンジメントをしたことのある人は少ないだろうね。花のさし方も詳しく話したら? 「聞き手を意識して事柄を具体的に」	頬が丸くならない。 くさが折れてたぶんお花の上の方がもてます。 必ずかがうだ。お花を一だいだ高音かえて とめての技 写真にまつわるエピソード とめらん

伝えられたかった「大変さ」が増えたので、代表者の「二つにまとめる」というメモから、「まとめての技」を取り入れていた。

○ 伝えたいことに合わせてスピーチメモの事柄・構成を変えた児童の例

順番	話の内容(メモ)	スピーチメモを構成しよう。
1	写真の説明 九州のゆかり公園 三年生くらいの時 が通っている。 大切にしている理由 ひいおじいちゃん	①聞き手にどんな感想をもってほしくてスピーチをしますか? ②聞き手を意識したスピーチ名人を目さそう
2	今はあまりい、しょに遊びに行こう なくなったから 九州まで遊びに行くことがあまり ないから	どうして「ひいおじいさん を大切にしたい」ということ になるのかなあ。
3	遊びに来ただからさせ、がくだし、行こう 写真にまつわるエピソード ひいおじいちゃん	ひいおじいちゃんを大切にしている
4	この写真を大切にして、これから もひいおじいちゃんを大切にしたい まとめる せん門店でハチミツを買ったり、オルゴ ルを作りしたりした。	ひいおじいちゃんを大切にしている

すごく楽しかった様子が伝わる
けど…ひいおじいさんはいきなり
出てきた感じだね。

楽しかった思い出を先に話してから、ひいおじいさんの話をしたら、「ひいおじいさんを大切に」思う気持ちにつながって聞きやすいだろう。

順番	話の内容(メモ)	スピーチメモを構成しよう。
1	写真の説明 九州のゆかり公園 年に何度も遊びに行っている 三年生くらいの時 が通っている。 大切な思い出 ひいおじいちゃん	わたしの「どつておきの一枚」を紹介しよう。
2	今はあまりい、しょに遊びに行こう なくなったから 九州まで遊びに行くことがあまり ないから	聞き手にどんな感想をもってほしくてスピーチをしますか?
3	遊びに来ただからさせ、がくだし、行こう 写真にまつわるエピソード ひいおじいちゃん	ひいおじいちゃんを大切にしている
4	この写真を大切にして、これから もひいおじいちゃんを大切にしたい まとめる せん門店でハチミツを買ったり、オルゴ ルを作りたりした。	ひいおじいちゃんを大切にしている

今は、おじいさんが足を悪くして、出歩けなくなった、ということは、聞いていた友だちは知らない。だから、メモを増やそう。

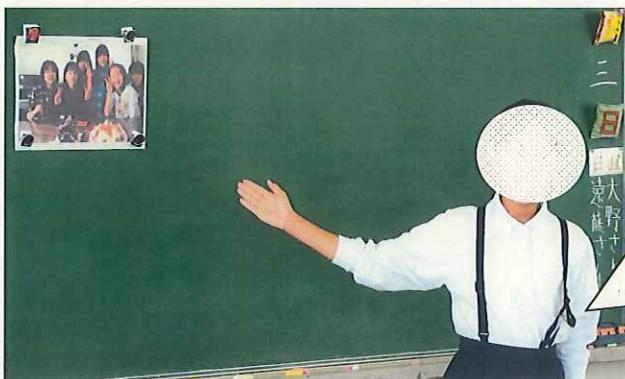
事柄・構成の工夫

- ひいおじいさんの現在の様子を加えることで、聞き手に共感してもらうことができるということに気付くことができた。これは、第1次の教師のスピーチでも見付けた技だが、「必要な言葉を加える事柄の工夫」は、聞き手を意識して児童が使おうとした時に、生きた力となる。
- まとめにつながる部分に目を向けて、「話す順序を変える構成の工夫」の効果を実感できた。

「聞き手を意識しながら話す技を学ぶ」ためのモデルスピーチ

第5時

- ① 聞き方メモについて教材を読む。
- ② 代表者のスピーチを聞き、スピーチの練習をする。



話し方の工夫

問い合わせた後にゆっくりと待ってくれたので、自分と比べて聞けたよ。

「間をあける技」「視線の技」

楽しそうに明るく話してくれたので、楽しい様子が伝わるよ。「表情の技」

理由を2つ…と言ってくれて、分かりやすかった。 「まとめての技」

「写真に注目」させる技があって分かりやすかった。

「話し手と聞き手の交流を図る」ための聞き方シートの活用

第3次

第6時 スピーチ大会を開き、話し手と聞き手の交流を図る。

「聞き方名人を目指そう」の目標を掲げ、聞き方のポイントを二つ絞った。

- ① 話し手の気持ちを考えよう。何が伝えたかったのかな。
- ② 自分の経験や考え方と比べながら聞こう。

また、聞いたことを自分の言葉に置き換えて伝えることを意識させるために、「心に残ったことを一言で言うと…」の欄も設けた。

(①視点で感想を書いた児童)

(②の視点で感想を書いた児童)

<p>友達、 きずな</p> <p>*心に残ったことを一言で言うと…</p>	<p>おかしの家 例がある 我が家がくずれ たときに、うど うか 友達のうと か</p> <p>*感想(①)の視点で書く</p>	<p>話し手が、「思い出してがんばる」といつたことに対し、「友だち・絆」と言い換えてまとめている。</p> <p>*感想(②)の視点で書く</p>	<p>みんなで楽しくしたおかしい。でも、いは けしたほとんどの子がクスカ引にするとつら ですよね。でも、また新しい子といしょにおかし ぱりをしようといつ前向きな心に感どうして みたこと一言で言うと…私をうたうと思はせ た</p> <p>新しい思い出をつくりたい。</p> <p>*心に残ったことを一言で言うと…私はうたうと思はせた</p>	<p>話し手の力強い話し方に、前向きな気持ちを感じている。</p>
--------------------------------------------	------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	-----------------------------------

話し手と聞き手の
交流を図る

聞き方メモを発表させ、それに対して話し手からも感想を述べさせることで、双方の気持ちの交流が図れた。話し手は、自分がスピーチで使っていない言葉でまとめてもらえた時に、より「伝わった」「分かってくれた」という気持ちがもてたようだ。
また、聞き手は、視点が絞られたことで、感想を発表しやすくなつたようだ。

(3) 話し合いを大切にした学級の風土づくり

「話す」技術を学んでも、「聞いてもらえる」雰囲気や、「話す必要性」がない集団では「話そう」という意欲は育たないだろう。

そこで、年間を通しての言語活動として設定した「総合学習発表会」に向けて、国語科での系統立てた指導とともに、学級会指導や日常の指導といった積み重ねを行った。

① 「分かりやすく話す」ことを意識づけるための国語科の系統

主に「話す・聞く」活動と「読む・書く」活動を系統立てて指導し、児童には常に「分かりやすく話す」ことを意識させた。

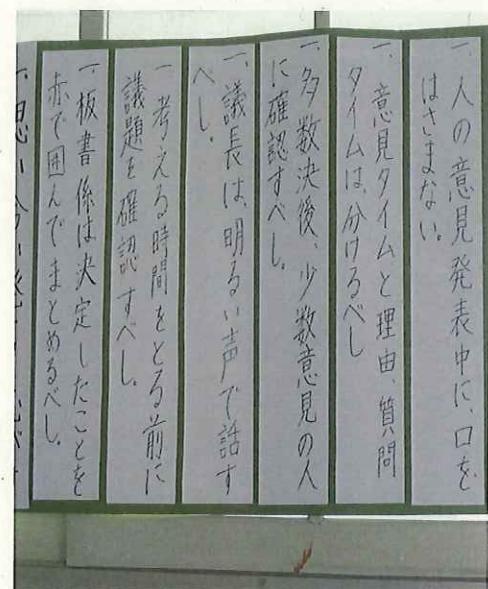
② 「話し合う必要性」「話し合う喜び」「聞く必要性」

を育てる学級会活動

本学級は、「不公平は許さない」を基盤に学級経営をしており、「話す」「聞いてもらう」ことも公平に認め合っている。

学級会では、決められた時間内に内容のある話し合いをするために、自分たちの話し合いを振り返りながら、少しずつ「話し合いのきまり」を見つけ、「話し合い〇箇条」として掲示していく。

声の小さい友だちに対しては、要求発言のルールが生まれ、誰に対しても「話を聞こう」とする姿勢が生まれている。



③ 「話す・聞く」を意識付ける常時指導

○ 全校集会で聞いた「先生の話」を振り返らせ、連絡帳の日記の欄に書かせる。

① 感じたこと・分かったこと

② 話し方の工夫（効果的な資料の用い方・間の取り方など）

「今月の漢字」は、何だろうと思いながら校長先生のお話を聞きました。

まず、「心」の字が出されたので、「感」はすんでいるから、「思」かな、と思っていると、上から字が重なって「怒」という字になったので、びっくりしました。怒っていいのかな、と思っていると、最後に「口」の字が重ねられ、「恕」という字になりました。校長先生が「ゆるす」という意味だと教えてくださいました。

「怒る」気持ちを少し変えただけで、「ゆるす」ことができる、と分かりました。

わたしは、友だちや妹に怒ってしまうけど、ゆるせそうな気がします。

【校長先生の意図的な資料の出し方を感じた児童の日記】

○ 授業中の発表指導

・ 視線をつないで応答し合う。

「見てください。」「～ですね。」「はい。」

・ 「意見」「理由」を分けた話し方をする

○ 声をしっかりと出す場を設定し、声が響き合う心地よさを味わわせる。

・ 授業開始・朝のあいさつ

・ 毎月の「作詩」音読大会など

成果と課題

- 教科書教材だけでなく、教師のスピーチや、モデルスピーチなども取り入れたことで、実際に各自がスピーチメモを見直したり、スピーチ練習をしたりする際、振り返りながら学習を深めることができた。スピーチの「内容」に目を向ける段階と、「話し方」に目を向ける段階とを分け、児童の活動を焦点化することで、ひとり学びやグループ学習に取り組みやすくなった。
- 聞き手に合わせて、「必要な言葉を加え」たり、「話す順序を入れ替え」たりといった工夫ができた。このことによって、形式的なスピーチの型から、聞き手の反応に合わせて詳しく伝えようとする意識が高まった。また、実際のスピーチでは、見直した部分を強調するような（ゆっくり、大きく）「話し方」につながった。
- 聞き手が視点を絞ったワークシートを用い、必ず反応することで、話し手も安心して話せる雰囲気が生まれた。自然と話し手側に余裕が生まれ、楽しそうな話し方ができるようになり、聞き手も安心して聞ける、といったよい循環が生まれてきた。あえて「話し方」についての感想は書かないようにしたことで、「内容面」に焦点を当てることができた。
- 総合学習では、聞き手を引き付け、印象付けるための工夫に個性が見られ、楽しく話せていた。



- 総合学習後、保護者に感想を書いてもらい、賞賛してもらえたことで、更に自信につながったようだ。普段の授業、特に自分の意思を伝える場面の多い学級会活動においても「話の内容」や「話し方」を意識する児童が増えた。6年の4月に行ったアイチェックでは、「積極的に発言する」には63.3%、「相手の話を最後まで聞いてから発言」には90%の子どもが肯定的であった。また、普段の委員会活動や、代表委員会などでも「司会や発表が分かりやすい」と担当教師から賞賛されることが増えた。
- スピーチメモの校正に時間をかけ過ぎてしまった児童の中に、「スピーチは面倒くさい」という気持ちが生じてしまったようだ。また、メモ書きすることに抵抗感のある子どもが多くいた。スピーチ原稿になってしまった児童は、スピーチ大会で「話す」より「読む」ようになったので、メモ書きの指導も日常の積み重ねが必要であると感じた。
- 具体性のないスピーチを考えている児童に「技」の数を2つ以上入れるように助言したところ、意識は集中したが、単に「技」を取り入れただけで満足し、あまり効果のない内容になってしまった。